



野尻長十郎と結婚後の福田たね(後列左から2人目)と夫(右から2人目)と子どもたち 1926年頃 当館蔵



福田たね《静物 桃》(部分) 1966年 当館蔵



芥川やす子《おさかな》(部分) 1962年 当館蔵



福田蘭童が使用していた尺八(部分) 個人蔵(当館寄託)

福田たね生誕140年・ロマンの碑復元記念

福田たねとその子どもたち

青木繁の名作は
ここで生まれた

令和7年 **3月23日(日)～6月1日(日)**

※3月23日(日)は、午後1時から一般公開となります。

観覧時間：9：30～17：00(土日祝日は9：00～17：00)

休館日：月曜日(5月5日を除く)・3月28日(金)・4月30日(水)・5月7日(水)・5月30日(金)

観覧料：無料

場所：芳賀町総合情報館 展示室2

主催：芳賀町教育委員会・芳賀町総合情報館

後援：下野新聞社・読売新聞宇都宮支局・とちぎテレビ・エフエム栃木・もおか新聞plus

知恵の環館
芳賀町総合情報館

福田たねとその子どもたち

青木繁の名作はここで生まれた

2025.03.23 sun – 06.01 sun

芳賀町東高橋の五行川のほとりに「ロマンの碑」と呼ばれる記念碑があるのをご存じでしょうか。その碑には、天才と言われた明治の画家・青木繁、その恋人で芳賀郡東高橋村（現在の芳賀町）生まれの福田たね、二人の息子の幸彦（さちひこ）（後の音楽家・福田蘭童）が刻まれています。令和5年（2023）、この碑は盗難被害に遭ってしまいました。芳賀町では「ロマンの碑」復元プロジェクトを立ち上げ、多くの方々のご協力によりこのたび復元することが叶いました。

青木繁をご存知の方は多いと思います。では、福田たねはどのような人物だったのでしょうか。この展覧会では、福田たねの生涯を軸に、たねと青木繁の関係性、たねの子どもたちの中でも芸術に関係した福田蘭童、芥川やす子について、作品や資料を通して紹介します。福田たねの存在とは、彼女が与えた影響は何だったのでしょうか。ぜひ、会場でお確かめください。

福田たね 1885-1968

芳賀郡東高橋村で教育者・福田豊吉の長女として生まれる。洋画を日光の五百城文哉の画塾と東京の不同舎で学ぶ。不同舎で青木繁と出会い恋人となる。青木と離別後、野尻長十郎と結婚し三男四女に恵まれる。晩年は再び画家として活動した。



福田たね・青木繁《ぶどう園》 1907年
個人蔵(当館寄託)



福田たね《不同舎のアトリエ》 1961年 当館蔵



福田蘭童作曲《水沼小学校校歌》 1958年 当館蔵

福田蘭童 1905-1976

青木繁と福田たねの子。本名は幸彦と言ひ、戸籍上はたねの父・福田豊吉の五男として届けられる。上京して尺八奏者、作曲家として活躍。晩年は執筆活動を主とする。一方で、釣りや料理にも長けた趣味人としての顔も持つ。



福田蘭童の使用していた尺八 個人蔵(当館寄託)



芥川やす子《魚》(部分) 1960年 当館蔵



芥川やす子《子ども》 1966年 当館蔵

芥川やす子 1920-2007

帝国製麻の工場長をしていた野尻長十郎と福田たねの四女。近代詩文書を提唱した金子鷗亭に師事し、書家となる。毎日書道展、日書展などで受賞し、母・たねの影響を思わせる油絵の具やろうけつ染めなどを用いた独創的な作品を制作した。

【関連事業】 担当学芸員によるギャラリートーク ※事前申込み不用
4月6日(日) 11:00~、5月24日(土) 11:00~ 集合場所: 展示室2 入口(20分程度)

【お願い】お車でお越しの際は、芳賀町役場駐車場または役場西側の総合情報館駐車場(倉持整形外科前)をご利用ください。

芳賀町総合情報館

〒321-3307 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井南1-1-1
TEL 028-677-2525 FAX 028-677-2886
URL <https://www.town.tochigi-haga.lg.jp>



アクセス

- LRT: JR宇都宮駅東口から「芳賀工業団地管理センター前」下車、JRバスに乗り換え、「芳賀町役場前」下車すぐ
- 自動車: 北関東自動車道真岡I.Cから約30分/JR宇都宮駅東口から約30分

